

## [第 2 学年の目標]

- (1) 具体物を用いた活動などを通して、数についての感覚を豊かにする。数の意味や表し方についての理解を深めるとともに、加法及び減法についての理解を深め、用いることができるようにする。また、乗法の意味を理解し、その計算の仕方を考え、用いることができるようにする。
- (2) 具体物を用いた活動などを通して、長さや**体積**などの単位と測定について理解できるようにし、量の大きさについての感覚を豊かにする。
- (3) 具体物を用いた活動などを通して、**三角形や四角形などの図形について理解できるようにし**、図形についての感覚を豊かにする。

## [第 2 学年の評価規準]

- [算数への関心・意欲・態度] 数量や図形に親しみを持ち、それらについて様々な経験をもととするとともに、知識や技能などを進んで用いようとしている。
- [数学的な考え方] 算数的活動を通して、数理的な処理の仕方を工夫したり考えたりすることができる。
- [数量や図形についての表現・処理] 数の計算が確実にでき、それを用いるとともに、物の大きさを測定したり、**長方形**、**正方形**、**直角三角形**の形を観察したり、構成したりすることができる。
- [数量や図形についての知識・理解] 数量や図形についての感覚を豊かにするとともに、整数の意味と表し方、整数の計算の意味及び量の単位と測定の意味、**基本的な図形**がわかる。

## A. 数と計算

- (1) 数の意味や表し方について理解し、数を用いる能力を伸ばす。
- (2) 加法及び減法についての理解を深め、それらを用いる能力を伸ばす。
- (3) 乗法の意味について理解し、それを用いることができるようにする。

単元	目 標	観点別評価規準			
		算数への関心・意欲・態度	数学的な考え方	数量や図形についての表現・処理	数量や図形についての知識・理解
A. 数と計算		・数や計算に親しみを持ち、それらについて様々な経験をもととするとともに、日常生活の中で進んで用いようとしている。	・実際にものの大きさや順序を調べたり、大きさなどを図や式に表したりするなどの活動を通して、十進位取り記数法による数の表し方や計算の仕方を工夫したり、考えたりすることができる。	・数を用いる能力を伸ばすとともに、整数の加法、減法や乗法の計算が確実にでき、それらを使うことができる。	・数についての感覚を豊かにするとともに、整数の意味と表し方、整数の加法及び減法の計算の仕方、乗法の計算の意味がわかる。
ひょうとグラフ	・一次元の表やグラフをかいたり、読んだりすることができる。	・一次元の表やグラフのつくり方を考えたり、日常生活の中の事柄を進んでグラフに表したりしようとしている。	・簡単な事柄を表やグラフに分類整理し、考察することができる。	・数を用いて一次元の表をかいたり、○を使ったグラフをかいたりできる。	・表やグラフの読み取り方がわかる。
	1. 一次元の表をつくらしたり、読んだりすることができる。	・簡単な事柄の整理に、表を進んで用いようとしている。	・簡単な事柄を表にし、考察することができる。	①数を用いて一次元の表がかけられる。 ②表から、数の大小、順序、差を見つけることができる。	①用語「表」がわかる。 ②表題を見て、何をまとめた表かわかる。
	2. 簡単なグラフをかいたり、読んだりすることができる。	・グラフのよさがわかり、進んで用いようとしている。	・事柄をグラフに表し、大小や差を読みとることができる。	①○を使ったグラフがかけられる。 ②○を使ったグラフから、数の大小、順序、差を見つけることができる。	①用語「グラフ」がわかる。 ②○を使ったグラフで、数の大小、順序、差の読みとり方がわかる。
たし算のひっ算	・加法の筆算形式の計算ができる。また、計算の仕方を考え、確かめることができる。	・加法の仕方を考えたり、日常生活の中で、加法が用いられている場面を進んで探し、筆算を用いたりしようとしている。	・既習事項を活用して、加法の筆算の仕方を考えることができる。	・(2位数)+(2位数)、(2位数)+(1位数)の計算を筆算ですることができる。	・(2位数)+(2位数)、(2位数)+(1位数)の筆算の意味がわかり、その仕方がわかる。
	1. (2位数)+(2位数)で、くり上がりのない筆算の仕方がわかる。	・既習事項を活用して加法の筆算の仕方を考えようとしている。	・(1位数)+(1位数)の計算をもとに、数を十の位と一の位に分けて、筆算の仕方を考えることができる。	①(2位数)+(2位数)で、くり上がりのない計算を筆算ですることができる。 ②(2位数)+(何十)で、くり上がりのない計算を筆算ですることができる。 ③(2位数)+(1位数)で、くり上がりのない計算を筆算ですることができる。	①24+13 のような筆算の意味と、その仕方がわかる。 ②24+30 のような(2位数)+(何十)の計算も、①と同じような計算の仕方でも求められることがわかる。 ③32+4 のような(2位数)+(1位数)の計算も、①と同じような計算の仕方でも求められることがわかる。
	2. 加法の交換法則と、これを用いた検算の仕方がわかる。	・加法の交換法則を使って検算をし、正しい答えを求めようとしている。	・計算の決まりを、絵や図などを用いて説明することができる。	・たす数とたされる数の数値を入れ替えて、加法の検算ができる。	①「たす数」「たされる数」の用語の意味がわかる。 ②加法の交換法則の意味がわかる。

ひき算のひっ算	3. (2位数)+(2位数)で、くり上がりのある計算の筆算の仕方がわかる。	・筆算を使うと計算が正確に速くできるよさを知り、進んで用いようとしている。	・一の位の計算が、十の位へくり上がることに気付き、筆算の仕方を考えることができる。	①(2位数)+(2位数)で、くり上がりのある計算を筆算することができる。 ②(2位数)+(1位数)で、くり上がりのある計算を筆算することができる。	①37+28 のようなくり上がりのある(2位数)+(2位数)の筆算の意味と、その仕方がわかる。 ②28+6 のようなくり上がりのある(2位数)+(1位数)の筆算の意味と、その仕方がわかる。
	・減法の筆算形式の計算ができる。また、計算の仕方を考えたり、確かめに用いたりすることができる。	・既習事項を使って減法の筆算の仕方を考えたり、日常生活の中で、減法が用いられている場面を進んで探し、筆算を活用したりしようとしている。	・既習事項を用いて、減法の筆算の仕方を考えることができる。	・(2位数)-(2位数)、(2位数)-(1位数)の計算を筆算することができる。	・(2位数)-(2位数)、(2位数)-(1位数)の筆算の意味と、その仕方がわかる。
	1. (2位数)-(2位数)で、くり下がりのない計算の筆算の仕方がわかる。	・筆算の仕方を考えようとしている。	・2位数の減法の仕方を、(1位数)-(1位数)の計算をもとに考えることができる。	①(2位数)-(2位数)で、くり下がりのない計算を筆算することができる。 ②(2位数)-(何十)で、くり下がりのない計算を筆算することができる。 ③(2位数)-(1位数)で、くり下がりのない計算を筆算することができる。	①39-15 のような筆算の意味と、その仕方がわかる。 ②37-20 のような(2位数)-(何十)の計算も、①と同じような計算の仕方で求められることがわかる。 ③37-5 のような(2位数)-(1位数)の計算も、①と同じような計算の仕方で求められることがわかる。
	2. 減法の答えにひく数をたすと、もとの数(ひかれる数)になることを知り、これを減法の検算に使うことができる。	・減法計算をしただけでも検算をして、答えを自分で確かめようとしている。	・ひかれる数、答えとひく数の関係を見つけて、減法の検算の仕方を考えることができる。	・減法の検算ができる。	①「ひく数」「ひかれる数」の用語の意味がわかる。 ②減法の答えが加法で確かめられる理由がわかる。
1000までの数	3. (2位数)-(2位数)で、くり下がりのある計算の筆算の仕方がわかる。	・筆算を進んで使って、計算を正しくしようとしている。	・(2位数)-(2位数)で、くり下がりのある筆算を、既習の減法の仕方をもとに考えることができる。	①(2位数)-(2位数)で、くり下がりのある計算を筆算することができる。 ②(2位数)-(1位数)で、くり下がりのある計算を筆算することができる。	①45-18 のようなくり下がりのある(2位数)-(2位数)の筆算の仕方がわかる。 ②45-8 のようなくり下がりのある(2位数)-(1位数)の筆算の仕方がわかる。
	4. 加減計算を応用して文章題を解くことができる。	・絵図やテープ図を使って、問題を解決しようとしている。	・「多い」「少ない」の言葉を手がかりに、加法か減法かを判断して解決することができる。	・絵図やテープ図から数量の関係を読みとり、加法か減法かを決定することができる。	・絵図やテープ図の見方がわかる。
	・3位数について、数の表し方と読み方がわかる。また、1000(千)という数と、1000までの数の大小、順序、系列がわかる。何十、何百の簡単な加減計算ができる。	①10や100のまとまりにして、1000までの数を数えたり、読んだり、書いたりしようとしている。 ②進んで加減計算をしようとしている。	①2位数の表し方のしくみをもとに、3位数の数のしくみを見いだすことができる。 ②位の数が10になると、次の位へ進むことを見いだすことができる。	・1000までの数について読んだり、書いたりすることができる。	・3位数について、十進位取り記数法の意味と、それによる数の表し方や数の大小、順序がわかる。
	1. 1000未満の数の数え方や命数法がわかる。	・数多くあるものの個数を10や100のまとまりにして、進んで数えようとしている。	・1が10個集まると10、10が10個集まると100になるという既習の考えを拡張させて考えることができる。	①10ずつ、100ずつまとめて考えることができる。 ②100が2つと、10が3つと、1が5つ集まった数を235のように書くことができる。 ③3位数の数を正しく読むことができる。	①十進位取り記数法の意味としくみがわかる。 ②記数法の特徴がわかる。
1000までの数	2. 3位数の位取りの原理と記数法がわかる。	・1000までの数を進んで使おうとしている。	・10、100を単位として、数の表し方を考えることができる。	①八百四十七を847のように算用数字で書くことができる。 ②二百六のように、十の位が空位の3位数を206と書くことができる。	①「百の位」の用語の意味がわかる。 ②二百三のように、空位のある3位数を203と表す意味がわかる。
	3. 数の相対的な見方がわかる。	・1つの数を10や100を単位とするなど、いろいろな見方ととらえようとしている。	・10、100を単位として、数の相対的な大きさをとらえることができる。	①230のような数を、10を単位にしたり、100を単位にしたりして表すことができる。 ②百を10集めた数を千と言い、1000と書くことができる。	①230は、10を単位とすると、23個集めた数であるということがわかる。 ②百を10個集めた数が千であることや、999の次の数が1000であることがわかる。 ③1つの数をいろいろな単位をもとに見ることができ、数への感覚を豊かにしている。
	4. 1000の数字の読み方や書き方がわかる。	・進んで数を数直線上に表そうとしている。	①数直線上に数を表すと、大小の比較をしやすいうえをとらえることができる。 ②1000までの数を、100までの数と同じような考え方で、数直線上に表すことができる。	・1000までの数を数直線上に表すことができる。	・1000までの数の数直線の意味がわかる。

単元	目標	観点別評価規準			
		算数への関心・意欲・態度	数学的な考え方	数量や図形についての表現・処理	数量や図形についての知識・理解
1000 までの数	5. 数量の大小関係を, 不等号を使って簡潔に表すことができる。	・数の大小関係を表すのに, 進んで不等号を用いようとしている。	・位取りの原理に着目して, 2つの数の大小を考えることができる。	・大小関係を, 不等号を使って簡潔に表すことができる。	・2つの数の大小関係を表すのに, 不等号「 $>$ 」「 $<$ 」を使うことがわかる。
	6. 10, 100 を単位とした数の加法, 減法の計算の仕方がわかる。	・何十や何百を, 10 や 100 を単位として計算しようとしている。	・10 や 100 を単位として, 計算の仕方を考えることができる。	①(何十)+(何十)のくり上がりのある計算ができる。 ②(百何十)-(何十)のくり下がりのある計算ができる。 ③(何百)+(何百)のくり上がりがない計算ができる。 ④(何百)-(何百)の計算ができる。	・何十, 何百の加法や減法の計算の仕方がわかる。
計算のじゅんじょとあん算	・加法の結合法則を適用して計算できる。また, くり上がりやくり下がりのある計算の暗算の仕方がわかる。	・何通りもの工夫した計算の仕方を自分で考えようとしている。	①たず順序を工夫すれば, 簡便に計算できることを見いだすことができる。 ②その場に応じて数を分解して, 簡便に計算する方法を見つけることができる。	①加法の結合法則を使って, ( )を使った式に表したり, 計算したりすることができる。 ②2位数と1位数の加減計算を暗算ですることができる。	①加法の結合法則や, ( )で表した式の意味や計算の仕方がわかる。 ②加減計算の暗算の仕方がわかる。
	1. 加法の結合法則を適用して計算できる。	・計算をするとき, できるだけ簡単に速くするための工夫をしようとしている。	・加法ではたず順序を変えても答えが変わらないという決まりを使って, 計算をすることができる。	①加法の結合法則を用いた立式ができる。 ②3口の加法ができる。	①加法の結合法則の意味がわかる。 ②( )を用いた式の意味や計算の仕方がわかる。
	2. (2位数)+(1位数)で, くり上がりのある計算の暗算の仕方がわかる。	①いろいろな計算の仕方を考えようとしている。 ②暗算を進んで使おうとしている。	①10 を作れるように, 数を分解して考えることができる。 ②上の位からたず暗算の仕方(頭加法)をすることができる。	・(2位数)+(1位数)や(1位数)+(2位数)で, くり上がりのある計算を暗算ですることができる。	・加法の暗算の仕方がわかる。
	3. (2位数)-(1位数)で, くり下がりのある計算の暗算の仕方がわかる。	①いろいろな計算の仕方を考えようとしている。 ②暗算を進んで使おうとしている。	①10 を作れるように, 数を分解して考えることができる。 ②上の位からひく暗算の仕方(頭減法)をすることができる。	・(2位数)-(1位数)で, くり下がりのある計算を暗算ですることができる。	・減法の暗算の仕方がわかる。
たし算とひき算のひっ算	・2位数までの加法で, 百の位にくり上がりのある計算の仕方がわかる。 ・(百何十何)-(2位数)で, くり下がりのある計算の仕方がわかる。 ・簡単な3位数の計算の仕方を考えることができる。	①くり上がりやくり下がりのある計算の仕方を自力で考えようとしている。 ②筆算のよさに気付いている。	①既習の筆算の仕方をもとに, 百の位へのくり上がりや, 波及的なくり下がりのある計算の筆算の仕方を見いだすことができる。 ②簡単な3位数と2位数などの計算の筆算の仕方を考えることができる。	①(2位数)+(2位数)で, 百の位へのくり上がりのある計算や, (3位数)-(2位数)で, 百の位からのくり下がりのある計算を筆算ですることができる。 ②(3位数)+(2位数)で, 百の位へのくり上がりがない計算や, (3位数)-(2位数)で, 百の位からのくり下がりがない計算を筆算ですることができる。	①(2位数)+(2位数)で, 百の位へのくり上がりのある計算や, (百何十何)-(2位数)で, 百の位からのくり下がりのある計算の筆算の仕方がわかる。 ②(3位数)+(2位数)で, 百の位へのくり上がりがない計算や, (3位数)-(2位数)で, 百の位からのくり下がりがない計算の筆算の仕方がわかる。
	1. (2位数)+(2位数)で, 百の位にくり上がりのある計算の筆算の仕方がわかる。	・筆算を使うと, 計算が正確に速くできるよさを知り, 進んで用いようとしている。	・十の位の計算が百の位にくり上がることに気付く, 筆算の仕方を考えることができる。	①(2位数)+(2位数)で, 百の位にくり上がりのある計算を筆算ですることができる。 ②(2位数)+(1位数)で, 百の位にくり上がりのある計算を筆算ですることができる。	①83+46のような, 百の位にくり上がる筆算の仕方がわかる。 ②76+58のような, 十の位と百の位にくり上がる筆算がわかる。 ③93+8のような, 百の位にくり上がる筆算の仕方がわかる。
	2. (百何十何)-(1~2位数)で, くり下がりのある計算の筆算の仕方がわかる。	・筆算のよさを知り, 進んで筆算を使って計算を正確にしようとしている。	・(百何十何)-(2位数)の計算を, (2位数)-(2位数)の計算の仕方をもとにして考えることができる。	①(百何十何)-(2位数)で, 百の位からのくり下がりのある計算を筆算ですることができる。 ②(百何十何)-(2位数)で, 百の位と十の位からのくり下がりのある計算を筆算ですることができる。 ③空位のある(百何十何)-(2位数)で, くり下がりのある計算を筆算ですることができる。	①129-53のような, 百の位からくり下がる筆算の仕方がわかる。 ②146-89のような, 百の位と十の位からくり下がる筆算の仕方がわかる。 ③102-65のような, 波及的なくり下がる筆算の仕方がわかる。

たし算とひき算のひっ算	3. (3位数)+(1~3位数)で、百の位へのくり上がりのない計算が筆算でできる。	・筆算のよさを知り、進んで筆算を使って計算を正確にしようとしている。	・既習の内容をもとに、(3位数)+(1~3位数)で、百の位へのくり上がりのない計算の筆算の仕方考えることができる。	・(3位数)+(1~3位数)で、百の位へのくり上がりのない計算を筆算ですることができる。	①628+7 のような、(3位数)+(1位数)の筆算の仕方がわかる。 ②234+57 のような、(3位数)+(2位数)の筆算の仕方がわかる。 ③800+700 のような、(3位数)+(3位数)の筆算の仕方がわかる。
	4. (3位数)-(1~3位数)で、百の位からのくり下がりのない計算が筆算でできる。	・筆算のよさを知り、進んで筆算を使って計算を正確にしようとしている。	・既習の内容をもとに、(3位数)-(1~3位数)で、百の位からのくり下がりのない計算の筆算の仕方考えることができる。	・(3位数)-(1~3位数)で、百の位からのくり下がりのない計算を筆算ですることができる。	①753-6 のような、(3位数)-(1位数)の筆算の仕方がわかる。 ②683-51, 546-27 のような、(3位数)-(2位数)の筆算の仕方がわかる。 ③500-100 のような、(3位数)-(3位数)の筆算の仕方がわかる。
かけ算(1)	・乗法の意味と式の表し方がわかる。また、積の求め方や乗法に関する用語がわかる。	①身のまわりから乗法になる場面をとらえ、乗法で表そうとしている。 ②九九の有用さに関心をもち、進んで用いようとしている。	①単位のいくつ分かを求める仕方考えることができる。 ②基準量といくつ分の関係を考えることができる。 ③乗数と被乗数と積との関係を見いだすことができる。	①乗法の場面に表すことができる。 ②各段の九九を構成し、唱えることができる。	①基準量といくつ分の関係から倍の意味がわかる。 ②乗数が1増えると、積は被乗数の数だけ増えることがわかる。 ③乗法に関する用語の意味がわかる。
	1. 乗法の意味がわかる。	・乗法の記号「×」を進んで使って立式しようとしている。	・乗法の意味から、累加を使って答えを考えることができる。	・乗法を「×」の記号を使って立式できる。	・「かけ算」の用語や「×」の記号の意味がわかる。
	2. 5, 2, 3, 4の段の九九の構成や唱え方がわかる。	・5, 2, 3, 4の段の九九を進んで用いようとしている。	①5, 2, 3, 4の段の九九を、図などを使ってつくっていくことができる。 ②九九の答えが段の数ずつ増える(減る)ことを見いだし、5, 2, 3, 4の段の九九を構成することができる。 ③乗数が1増えると、積が被乗数だけ増えることを使って、5, 2, 3, 4の段の九九を構成することができる。	①5, 2, 3, 4の段の九九を唱えることができる。 ②5, 2, 3, 4の段の九九が適用できる。	①九九の意味がわかり、具体例をもとに5, 2, 3, 4の段の九九の構成の仕方がわかる。 ②「かけられる数」「かける数」の用語の意味がわかる。 ③4の段の九九で、乗数が1増えると積が4増えることがわかる。
かけ算(2)	1. 6, 7, 8, 9, 1の段の九九の構成や唱え方がわかる。	①6, 7, 8, 9, 1の段の九九を進んで用いようとしている。 ②既習の段の九九の中にある関係に関心をもっている。 ③九九のきまりに目をつけ、6, 7, 8, 9, 1の段の九九を進んで用いようとしている。	①6, 7, 8, 9, 1の段の九九を、今まで構成した九九を使ってつくることができる。 ②乗数の変化に伴う積の変化を説明することができる。 ③九九の中の答えが同じになる式を見つけたり、そのわけを考えたりすることができる。 ④乗数が1増えると、積は被乗数だけ増えることを用いて、6, 7, 8, 9, 1の段の九九をつくることができる。	①6, 7, 8, 9, 1の段の九九を唱えることができる。 ②6, 7, 8, 9, 1の段の九九が適用できる。 ③6×4と4×6の関係や、6×7と4×7+2×7の関係を図に表すことができる。	①6, 7, 8, 9, 1の段の九九の構成の仕方がわかる。 ②乗法のきまり、6×4=4×6, 6×7=4×7+2×7の理由がわかる。 ③乗数が1増えると、積は被乗数の数だけ増えることがわかる。
	2. 乗法で、「かける数」と答えの関係を表にまとめることができる。	①九九の表から、いろいろなきまりを進んで見つけようとしている。 ②九九の表のもつ面白さをとらえることができる。	・乗法のきまりを使って、数を見つけたり、×10を考えたりできる。	①乗法九九を1つの表にまとめることができる。 ②乗法九九の表で、特定の答えを探することができる。 ③答えが同じ九九を取り出すことができる。	①乗法の交換法則の意味がわかる。 ②「かける数」が1増えると、積が「かけられる数」だけ増えることがわかる。
10000までの数	・4位数について、数の表し方と読み方がわかる。また、10000(一万)という数と、10000までの数の大小、順序、系列がわかる。	・10や100や1000のまとまりをつくり、10000までの数を数えたり、読んだり、書いたりしようとしている。	・位の数が10になると、上の位へ進むことを見いだすことができる。	・4位数について読んだり、書いたりすることができる。	・4位数について、十進位取り記数法の意味と、それによる数の表し方や数の大小、順序がわかる。



長さ	<ul style="list-style-type: none"> <li>長さの普遍単位の必要性に気づき、単位がわかり、ものさしを使って測定することができる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>目的や対象に適した単位を選んで、身近なものを進んで測定しようとしている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>長さを測る活動を通して、長さを測るには、単位のいくつかを数えることによって測定できることをとらえることができる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>①基準となる道具(ものさし)を使って、正しく長さを測ることができる。</li> <li>②cm と mm の複名数で長さを表すことができる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>①長さを表すには、センチメートル(cm)やミリメートル(mm)の普遍単位が必要であることがわかる。</li> <li>②1cm=10mm の関係がわかる。</li> </ul>
	<ul style="list-style-type: none"> <li>1. 長さを数で表すことができる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>数を使って、長さを表そうとしている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>任意単位を使い、連続量を数値化して表す工夫をすることができる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>任意単位のいくつかで長さを表すことができる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>任意単位のいくつかによって、長さを表すことがわかる。</li> </ul>
	<ul style="list-style-type: none"> <li>2. 長さの単位「cm」を知る。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>ものさしを使って、長さを測ろうとしている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>長さを測る活動を通して、普遍単位の必要性に気付く。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>ものさしで、身近なものの長さを測り、cm を使って表すことができる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>①長さの単位「センチメートル」がわかる。</li> <li>②30cm のものさしの使い方がわかる。</li> <li>③長さの単位「cm」を使った測定の仕方がわかる。</li> </ul>
	<ul style="list-style-type: none"> <li>3. 1cm より短い普遍単位の必要性和、長さの単位「mm」を知る。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>①1cm より短い長さも正確に測ろうとしている。</li> <li>②ものさしを使うと、短い長さでも正確に測れるという便利さを感じている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>cm で測れないはしたの長さを測る活動を通して、さらに小さい単位 mm が必要であることに気付く。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>①ものさしを使って、mm 単位まで長さを測ることができる。</li> <li>②ものさしを使って、直線の長さを測ったり特定の長さの直線をかいたりすることができる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>①長さの単位「ミリメートル」がわかり、mm を使って長さを表す仕方がわかる。</li> <li>②1cm=10mm の関係がわかる。</li> <li>③14cm 8mm のような、複名数による測定値の表し方がわかる。</li> <li>④用語「直線」がわかる。</li> </ul>
長さ	<ul style="list-style-type: none"> <li>長さの単位「m」の必要性がわかり、ものさしを使って長さの測定をすることができる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>1m のものさしを使って、長さを進んで測定し、生活に活かそうとしている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>①長いものの長さを測る活動を通して、大きな単位mの必要性を見いだすことができる。</li> <li>②目的や測るものにに応じて、それに適した単位や道具を選択して測定することができる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>①1m のものさしを使って、ものの長さを正確に測ることができる。</li> <li>②長さを複名数で表したり、読んだりすることができる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>メートル(m)の単位がわかり、1m=100cm の関係がわかる。</li> </ul>
	<ul style="list-style-type: none"> <li>1. 長さの単位「m」がわかり、ものさしを使って長さの測定をすることができる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>1m のものさしを使って、身のまわりのものの長さを測ろうとしている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>実際に測る対象物により、適切な単位を考えることができる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>①1m のものさしで、ものの長さを測り、m を単位にして表すことができる。</li> <li>②m を単位にして長さを表すことができる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>①長さの単位「メートル」がわかり、m を使って長さを表す仕方がわかる。</li> <li>②1m のものさしのしくみがわかる。</li> <li>③1m=100cm の関係がわかる。</li> </ul>
	<ul style="list-style-type: none"> <li>2. 複名数による長さの表し方、読み方がわかる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>長さを単位(m, cm)を使って表そうとしている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>複名数を用いて長さを測定したり、表したりしようと思えることができる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>長さを測って複名数で表したり、読んだりすることができる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>複名数を用いた長さの表し方がわかる。</li> </ul>
かさ	<ul style="list-style-type: none"> <li>かさの概念や単位がわかり、測定ができる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>身のまわりのかさなどに関心をもち、もののかさを調べたり、表したりしようとしている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>かさも単位のいくつかでとらえて、数値化し、測定しようと思えることができる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>かさの単位 l, dl, ml を用いて表したり、測定したりすることができる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>かさの単位 l, dl, ml やその関係、測定の仕方がわかる。</li> </ul>
	<ul style="list-style-type: none"> <li>1. かさの比べ方と表し方がわかる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>かさに関心をもち、比べようとしている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>長さと同じように、単位のいくつかでとらえて考えることができる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>①かさを直接比較、間接比較で比べることができる。</li> <li>②かさを単位 dl を用いて測定することができる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>①かさの直接比較、間接比較の仕方がわかる。</li> <li>②かさの単位 dl を用いた測定の仕方がわかる。</li> </ul>
	<ul style="list-style-type: none"> <li>2. かさの単位 l, dl, ml の関係がわかる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>かさの表し方に関心をもち、調べたり、表したりしようとしている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>測定するものによって、適切な単位を用いて測定したり表したりしようと思えることができる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>①かさの単位 l, dl, ml を用いてかさを測定したり、表したりすることができる。</li> <li>②かさを 1 l 5 dl など複名数で表すことができる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>①かさの単位 l, dl, ml を用いてかさを測定したり、表したりする仕方がわかる。</li> <li>②かさを複名数で表す仕方がわかる。</li> </ul>
時間	<ul style="list-style-type: none"> <li>時間の単位について知り、用いることができる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>生活の中で、時刻や時間に関心をもち、進んで用いようとしている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>具体物を使って時刻や時間を求めることができる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>時刻や時間を具体的な場面で適切に用いることができる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>時間の単位(日・時・分)の関係がわかる。</li> </ul>
	<ul style="list-style-type: none"> <li>1. 時刻と時間の意味がわかる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>時刻と時間の意味の違いを意識して生活の中で使おうとしている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>時計を使って、時刻と時間の読み方を考えることができる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>①場面に即して時刻と時間を読み取ることができる。</li> <li>②2つの時刻の間の時間を求めることができる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>1時間=60分がわかるとともに、時刻と時間の読み方がわかる。</li> </ul>
	<ul style="list-style-type: none"> <li>2. 時間の単位の関係がわかる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>時間の単位に関心をもち、具体物や計算で求めようとしている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>具体物や数直線などを使って、時刻や時間の求め方を考えることができる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>「午前」「午後」を使って時刻を表すことができる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>1日=24時間、「午前」、「午後」がわかる。</li> </ul>

C. 図形

(1)ものの形についての観察や構成などの活動を通して、図形を構成する要素に着目し、基本的な図形について理解できるようにする。

単元	目標	観点別評価規準			
		算数への関心・意欲・態度	数学的な考え方	数量や図形についての表現・処理	数量や図形についての知識・理解
C. 図形		・箱の形や、正方形、長方形、直角三角形にかかわる知識や図形の有用さ、及びその性質や関係を調べたり、筋道を立てて考えたりすることの楽しさやよさに気づき、進んで生活に活かそうとしている。	・箱の形や正方形、長方形、直角三角形にかかわる算数的活動を通して、それらの形の構成要素などに着目し、それらの性質や関係を考えることができる。	・箱の形や正方形、長方形、直角三角形を調べたり、かいたり、つくったりすることができる。	・箱の形や正方形、長方形、直角三角形についての感覚を豊かにするとともに、それらの意味や簡単な性質がわかる。
三角形と四角形(1)	・三角形や四角形の意味がわかり、かいたり、つくったりできる。	①身のまわりから三角形や四角形を見つけようとしている。 ②三角形や四角形を進んでかいたりつくったりしようとしている。	・作業的・体験的活動を通して、見つけた三角形や四角形を、辺や頂点に着目して考えることができる。	・三角形や四角形をかいたり、つくったりすることができる。	・三角形や四角形の意味や特徴がわかる。
	1. 三角形と四角形を構成要素とその数から理解することができる。	①身のまわりから、三角形や四角形の形をしたものを進んで探そうとしている。 ②色板やひごを使って、いろいろな形をつくらそうとしている。	・図形の構成要素に着目して、図形の特徴を考えることができる。	①点と点を直線で結び、三角形や四角形を作図できる。 ②三角形や四角形の辺や頂点を指摘することができる。	・三角形と四角形の意味がわかる。
三角形と四角形(2)	・長方形や正方形、直角三角形の意味や構成要素がわかり、かくことができる。	・身のまわりの形に関心もち、長方形や直角三角形を構成する活動を通して、図形の特徴や関係を見つけようとしている。	・長方形や直角三角形の特徴を辺や頂点、角の形に着目して関係を考えることができる。	・長方形、正方形、直角三角形を見つけたり、かいたりすることができる。	・長方形、正方形、直角三角形の特徴、かき方、構成要素がわかる。
	1. 長方形と正方形の意味や構成要素がわかり、かくことができる。	・身のまわりから長方形や正方形のものを見つけようとしている。	・直角や辺に着目して図形を分類したり、証明したりすることができる。また、構成要素に着目して性質を調べることができる。	①直角、辺、頂点を指摘することができる。②長方形を見つけたり、かいたりすることができる。③正方形を見つけたり、かいたりすることができる。	①「直角」、「辺」、「頂点」の意味がわかる。 ②長方形の定義、性質、かき方がわかる。 ③正方形の定義、性質、かき方がわかる。
	2. 直角三角形がわかり、かくことができる。	・直角や直角三角形に関心もち、身のまわりから探そうとしている。	・直角や辺に着目して直角三角形の性質を調べることができる。	・直角三角形を見つけたり、かいたりすることができる。	・直角三角形の定義、性質、かき方がわかる。
	3. 長方形や直角三角形などをしきつめて、いろいろなことがわかる。	・模様づくりを楽しみ、しきつめた後の美しさに気付いている。	・どのようにしたらすきまなくしきつめられるか、どのように戻しになっているか考えて作業することができる。	・長方形、正方形、直角三角形などを使って、平面をしきつめることができる。	・長方形、正方形、直角三角形などを使うと平面がしきつめられることなどがわかり、図形についての感覚を豊かにしている。
はこの形	・箱の形を観察したり、切り開いたりして立体と構成要素がわかる。	・身のまわりにある箱に関心もち、その特徴を調べたり、構成したりしようとしている。	・箱の形を構成要素に着目して調べたり、説明したりすることができる。	・箱の形を構成要素に着目して調べることができる。また、箱を分解したり、箱を組み立てたりすることができる。	・箱の形は、構成要素に着目して調べればよいことがわかる。また、箱の分解の仕方や組み立て方がわかる。
	1. 面の意味がわかり、箱を組み立てることができる。	・箱はどのようにしてつくることができるか、関心もち、進んで取り組もうとしている。	・箱を分解したり、面を写し取ったりして、箱の特徴をとらえることができる。	①箱を6つの面に分解できる。 ②6つの面を組み合わせることで箱を組み立てることができる。	①箱がどのような、いくつの面からできているか調べ方がわかる。 ②直方体の基本的な展開図がわかる。
	2. 直方体の構成要素がわかる。	・身のまわりの箱がどのようなしくみになっているかに関心をもっている。	・平面図形にならって、直方体の構成要素をとらえようとしている。	・箱の形(直方体、立方体)の辺、頂点、面の数や長さが指摘できる。	①箱の形の辺、頂点、面の意味や調べ方がわかる。 ②ひごと粘土玉を使った箱の形のつくり方がわかる。